

令和 8 年度事業計画

1. 基本方針

令和 8 年度は55周年の節目の年である。節目の年にあたり、連盟のこれまでの実績を振り返りつつ、MVVに示すミッション、ビジョン、バリューを基本として今後とも維持発展していけるよう、連盟としてのあるべき姿や方向性を細分化し、総合的にまとめていく。規約関係は総務委員会が中心にまとめているが、それぞれの委員会の事業運営マニュアルを体系的に明文化し、55周年記念事業として「ANHA未来への遺産」という事業名で推進していく。これにより、毎年の事業運営において、同じことで迷わなくていいようにするとともに、より発展的に改善すべき点について考える時間を増やし、連盟のさらなる活性化につなげていくこととする。

2. これまでの主な実績

(1) 連盟組織体制基本フレームづくり

連盟の存在意義を高めることを目的として、国づくり、会づくり、人づくり、宿づくりの4本柱として各常任理事を充て、それぞれに担当委員会を設けた。

(2) 組織名称の変更

令和 3 年 3 月に全日本シティホテル連盟から全日本ホテル連盟へ名称変更し、シティホテルの集まりとして業態を限定するのではなくホテルという最大公約数を団体名とした。

(3) MVVSの策定

MVVSの確立と明文化と、その発表の場としての創立50周年記念式典を実行した。

(4) コロナ禍における政府への対応

GoToで商用旅行が補助対象外であったが、陳情を繰返し全国旅行支援で対象となった。

(5) タウンミーティング等ミッションに基づく事業活動の展開

タウンミーティング、フォーラム、経営者セミナー等100名規模の事業展開を行った。

(6) 会員数1,400名超の達成と経済的安定

3. 重点目標

(1) 11月15日が連盟の創立記念日であり、毎年、タウンミーティングを開催する時期であるため、第7回タウンミーティングを55周年創立記念大会とするか検討し実行する。

(2) 各委員会における事業運営マニュアルを作成し、全体として『ANHA 未来への遺産 全日本ホテル連盟 総合運営マニュアル』として11月15日までにまとめる。

(3) 2021年の50周年では準会員を含めて会員数1,000軒を目標としていたが、55周年では2,000

軒を目標とする。

- (4) 業界諸問題へ対応すべく、詳細は各委員会事業計画に反映する。

〔事業計画の概要〕

〔委員会〕

【国づくり】担当常任理事 北原 信輔（観光立国実現委員会、地域活性化委員会）

○観光立国実現委員会（委員長 宮崎 晴美）

「観光立国日本の実現」に寄与すべく、複雑な観光施策の咀嚼（そしゃく）と会員への伝達や、デジタルノマド等の新市場開拓を支援する。重要なのは、これらを一過性の情報の流れに留めないことであり、事例やノウハウを汎用的な「知のライブラリー」として仕組み化し、多くの会員が活用できる資産として定着させる。

1. 地域別インバウンド市場動向レポートの要約と会員への提供

目的：市場に応じた戦略立案を支援し、会員ホテルの地域参画を促進する。

- ・AIを活用した地域別データ分析（宿泊・消費・満足度等）
- ・可視化レポートを会員へメール配信
- ・データ共有プラットフォームの構築
- ・データに基づく地域観光戦略会議の開催

2. 地方滞在型インバウンド推進プロジェクト

目的：地方創生と長期滞在型インバウンドの促進。

- ・西のゴールデンルート等のDMOと連携した宿泊×体験型プロモーション
- ・訪日プラットフォーム（VisitJapan・Booking等）でのモデルコース発信
- ・長期滞在向け「ローカルホスピタリティ認定制度」の創設
- ・Colive 福岡（福岡市が推進する「海外デジタルノマドの誘客を目的としたプログラム事業」）への参画を通じて、デジタルノマド向け宿泊プランの開発（地域交流会・体験・語学交流を含む）

3. 国際観光展示会への参加

目的：海外プロモーションによる新規顧客開拓と日本観光の認知度向上。

- ・VISIT JAPAN Travel & MICE Mart等への出展
- ・観光庁・日本政府観光局・DMOとの連携強化
- ・海外市場に向けた共同プロモーションの実施
- ・地域の特色を活かした展示・イベントの展開

4. 委員会の定期開催（隔月）

- ・隔月開催を基本とし、オンラインまたは対面で実施
- ・プロジェクトの進捗確認、課題共有、意見交換を行い、事業の質向上を図る

5. 委員会メンバー

(委員長)	宮崎 晴美	(祇園クリスタルホテル)
(副委員長)	加川 佳奈	(MIMARU東京新宿WEST)
(委員)	山口 凌	(H.B.P.HOTEL)
(委員)	中島 秀雄	(ホテル・カサベラINN神戸)
(委員)	藤岡 武志	(アーバイン広島エグゼクティブ)
(委員)	相部 匡佑	(ホテルリファレンス冷泉)
(委員)	木村 頼子	(SARASAHOTELなんば)
(委員)	沖 一泰	(ホテル泰平)
(パートナー)	高橋 和久	(賛助会員 Tripla株式会社)

○地域活性化委員会（委員長 藤岡 武志）

宿泊施設は単なる滞在拠点に留まらず、地域の魅力を発信し、経済循環を生み出す「地域のハブ」としての役割が求められている。本年度、当委員会では「持続可能な観光地づくり」を最重要テーマに掲げ、地域の潜在的な観光資源を掘り起こす意味での活性化を図り、選ばれる地域、選ばれるホテルの実現を目指すこととする。

1. タウンミーティングの開催（愛知県豊橋市）～「通過点」から「目的地」へ

令和7年度の広島県福山市での開催に続き、令和8年度は愛知県豊橋市にてタウンミーティングを開催する。愛知県の東の玄関口である豊橋市は高い農業生産額と交通利便性を誇りながらも、観光においては通過型になりがちという、多くの地方都市が抱える共通の課題を有している。

豊橋、浜松を含む東三河地区で活躍されている各業界関係者、自治体、宿泊事業者が一堂に会し、地域資源を「食べる・泊まる・体験する」という一連のストーリーとして繋ぐモデルケースを構築する。これにより、通過型観光からの脱却を図り、会員ホテルへ具体的な活性化のヒントを提供する。

「広域かつ他業種を巻き込んで」広い視野と高い視座で計画を練る。今年度はANHA55周年であり、冠付けの上、著名人による基調講演と合わせて開催する。また、地元自治体への協力依頼やコンベンション協会の助成金を可能な限り活用して開催する。

2. 観光DX推進セミナー 賛助会員と連携しセミナーと商談会 令和8年11月

目的：スマートチェックインや多言語対応ツールの活用方法を提案する。

形式：賛助会員との共催による説明会および商談会の実施

・最新の観光インフラ（多言語対応観光ガイドやアプリ）、デジタル技術の導入事例の紹介

3. 地域イベントの情報発信の支援について

地域の各種文化イベントとホテルサービスを組み合わせてANHAで告知する。そ

のために会員にとって必要で有益な情報は何かを検討する。ANHA公式サイトにより紹介を行う。産学連携モデルの事例紹介のメール配信などを毎月1回配信する

4. 委員会の開催

隔月実施を基本として、オンラインまたは対面で実施する。タウンミーティングをはじめ委員会活動の情報共有と進捗状況の確認と方向性の確認を行う。

5. 委員会メンバー

(委員長) 藤岡 武志 (アーバイン広島エグゼクティブ)
(副委員長) 瀬尾 吉郎 (ベッセルホテル開発)
(委員) 山口 凌 (H.B.P.HOTEL)
岡村 匡 (ミナシア)
中島 秀雄 (ホテル・カサベラ INN 神戸)
石田 光一郎 (アクティブ・オペレーションズ)
宮崎 晴美 (祇園クリスタルホテル)
木村 頼子 (SARASAHOTELなんば)

【会づくり】担当常任理事 服部 公雄(総務委員会、政策諮問委員会)

「会づくり」は、ANHAの存在価値を高め、内外に向けて存在を周知すること、組織の規約、規程、行動規範などを制定し、ANHAの活動の中核である支部、委員会、本部等が安心して活動できるようにすることを事業運営の指針とする。

○総務委員会(委員長 長谷川 智英)

1. 内部統制、コンプライアンスの推進

令和7年度は役員・支部役員・委員長を対象とし内部統制・コンプライアンス推進研修を行った。令和8年度も内部統制・コンプライアンス推進のための研修会を開催する。

2. SDGsのための事業の推進

各委員会においてSDGs推進のために取り組むべき課題と事業活動を、委員会の分掌に基づき提案する。

3. 規程等の改正

(1) 事務局関係規程類の一部改正

令和7年度に就業規則、給与規程など事務局職員に関する規程改正の検討を行った。令和8年度は協議を踏まえて関係規程の改正を行い、事務局機能の強化に繋げる。

(2) 会務に関する規程類の一部改正

令和7年度は支部組織規程の一部改正、入会及び退会規則・入会のための基準の一部改正を行った。令和8年度は、その他の会務及び事務局に関する規程を確認し、見直しが必要な場合には、適時改正のための対応を行う。

(3) 定款の一部改正

会務のために必要な場合には、適時改正のための対応を行う。

4. 委員会メンバー

(委員長) 長谷川 智英 (大阪リバーサイドホテル)

(副委員長) 樋口 敬祐 (銀座国際ホテル)

(委員) 戸越 寿人 (株式会社三交イン)

(本部) 有野 一馬 (専務理事)

(本部) 吉本 充 (事務局長)

○政策諮問委員会 (小林 磨史)

会長、理事会等の諮問を受けて、連盟事業の発展と宿泊産業の価値向上を図るために、理事会に提案することを目的として、以下の活動を行う。

1. ANHAとして国、地方自治体等に対しての提言、陳情を行っていくために、ANHA 会員ホテルの意見を集約したり、他の宿泊団体等との協力により、ANHA及び宿泊業界の価値向上を高めるための活動を行う。
2. 会員の意見を幅広く集める手段として、オンラインによるアンケート調査を実施する。
3. 政府与党、国土交通省、観光庁、厚生労働省、他の観光団体と緊密に連携し、情報交換を行い、ANHA だけでなく、宿泊産業、観光全部の利益につながる活動を推進する。
4. 連盟事業及び連盟組織の健全な発展のため、コンプライアンス確保に努める。
5. 委員会の開催

定例会議を2カ月に1度開催し、情報交換・意見交換を行い、理事会への提案を協議する。(令和8年4月、6月、8月、10月、12月、令和9年2月)

6. 委員会メンバー

(顧問) 清水 嗣能 (会長) (ホテルリバージュアケボノ)

(委員長) 小林 磨史 (副会長) (ホテルニューステーション)

(副委員長) 生内 雄二 (副会長) (二戸シティホテル)

(委員) 藤野 公孝 (最高顧問)

(本部) 有野 一馬 (専務理事)

(本部) 吉本 充 (事務局長)

【人づくり】担当常任理事 林 孝浩 (会員増強委員会、青年部)

令和8年度は、全日本ホテル連盟創立55周年という節目の年であると同時に、現体制の最終年度として、これまでの成果を総括し、次世代へ確実につなげていく。令和8年度基本方針に掲げられた連盟の価値と存在意義を改めて明確にしてMVVSを軸に将来に向けた持続的な組織基盤を整備していくことが求められている。

「連盟の価値を伝え、育て、広げること」を基本姿勢とし、担当する会員増強委員会及び青年部の事業を相互に連動させながら、会員拡大と次世代人材育成を両輪とした取り組みを推進する。

○会員増強委員会（委員長 橋上 太一）

新規会員ホテルの獲得を軸に、委員会活動の可視化および委員・会員間の連携強化を図り、今以上に魅力ある連盟づくりを推進する。

1. ホテル産業フォーラムの開催 ～新規会員獲得の促進・業界内の地位向上～

令和9年（2027年）開催予定（地域・場所は未定、時期については常任理事会で協議する。）。新規会員ホテルの加入促進を図ると共に、会員同士及び賛助会員との交流を通じて、連盟活動の価値を広く発信する。併せて、会員増強の取り組み状況について実績共有を行い、会員間の連携強化につなげる。

2. 入会案内の新規作成（完成目標：2026年12月）

会員のメリットや連盟の活動内容を分かり易く整理した入会案内を新規に作成し、各委員による会員入会誘致活動及び対外的な説明資料として活用する。

併せて、印刷物としての活用に加え、団体公式ホームページ上にも掲載し、Web上からも閲覧・案内が可能な体制を整えることで、より幅広い対象への情報発信を図る。

3. 会員増強委員会 打ち合わせ・情報共有の実施（オンライン含む）

年4回（5・8・11・1月）を目安に、実績共有会および委員会を開催し、会員増強計画の進捗共有、課題整理および産業フォーラム実施に向けた協議を行う。

5月：今年度の事業計画の共有、入会案内原稿について、ホテル産業フォーラム開催地選定について

8月：ホテル産業フォーラム具体的事業計画について、入会案内について

11月：ホテル産業フォーラムについて

1月：今年度事業報告、次年度事業計画について

4. 委員会メンバー

（委員長） 橋上 太一 （湘南レーベル株式会社）

（副委員長） 下嶋 一義 （株式会社ミナシア）

（委員） 成田 雅範 （株式会社三交イン）

（委員） 砂田 大成 （株式会社三交イン）

（委員） 中原 一輝 （SK HOTEL 神戸駅前）

○青年部（部長 草野 小百合）

（令和8年度重点方針）

- ・会員相互の横のつながりの強化
- ・経営力・人材育成力の実践的向上

・地域・世代を超えた交流と挑戦の機会創出

青年部は、次代のホテル業界を担う若手経営者・後継者・幹部人材が、学び・交流・実践を通じて成長し、業界全体の発展に寄与することを目的とする。

単なる交流の場にとどまらず、学び・挑戦・実践を通じて成長する場としての役割が求められる。令和8年度は、会員一人ひとりが主体的に参加し、「青年部に参加して良かった」と実感できる事業運営を目指す。また、青年部活動を通じて得られた知見や課題意識を、連盟全体へ積極的に還元し、ANHAの将来基盤の強化につなげる。

1. 青年部報告会の開催（令和8年6月11日）

青年部の活動状況や課題、今後の方向性を共有し、正会員・準会員・賛助会員との意見交換を通じて、青年部活動への理解促進と連携強化を図る。

・開催時期：令和8年6月11日（定時総会終了後に開催）

2. 青年部研修・勉強会事業

青年部会員の経営力及びマネジメント力の向上を目的に、研修・勉強会を実施する。

対面研修では、青年部員が経営・運営するホテルや施設を視察し、現場に即した実践的な学びを得る。併せて、オンライン研修を活用し、全国の会員が継続的に参加できる学習機会を提供する。これらの事業を通じて、得られた知見を自社経営に活かすとともに、青年部全体の意識向上と人材育成につなげる。

(1) 青年部研修（対面開催）令和8年10月予定

(2) MGゲーム研修（湘南での開催計画）令和8年10月予定

(3) オンライン勉強会・セミナー 令和8年12月予定

(4) 青年部研修・情報交換会（岩手県北上市での開催）令和9年2月

3. 役員会の開催

青年部事業の円滑な推進と意思決定を行うとともに、現地視察・交流を通じて、実践的な議論と結束を深める。

4月：令和8年度事業計画の共有、青年部報告会事業計画・資料確認（オンライン）

6月：青年部報告会の最終確認、青年部研修事業の協議

7月：青年部研修事業の検討・調整（オンライン）

9月：研修の最終調整、次回オンライン勉強会の検討・調整

12月：オンライン勉強会の最終調整、次回研修事業の検討・調整（オンライン）

2月：研修の最終調整、次年度事業計画等の確認

4. 部会メンバー

（部長） 草野 小百合 （さくらPORT・HOTEL）

（副部長） 塚本 忍 （つくばの湯アーバンホテル）

（事務局長） 古田 篤史 （三交インGrande名古屋）

（委員） 樋口 敬佑 （銀座国際ホテル）

- (委員) 清水 久能 (ホテルリバージュアケボノ)
- (委員) 林 孝秀 (紋別プリンスホテル)
- (委員) 横川 将大 (リッチモンドホテル天神西通)
- (委員) 不川 裕也 (株式会社MS&O・ホテル於久仁)

【宿づくり】担当常任理事 内山 美樹 (研修委員会、女性部)

研修委員会・女性部は、MVVに掲げる「会員ホテルの価値向上」を実現する役割を担う委員会である。委員会が持つ力やアイデアを最大限に発揮できるよう、自律的に安心して活動できる土台づくりを担う。

そのために、情報共有を徹底しながら、事業手順・委員会規程・本部との連携・予算管理を丁寧に確認して進める。また、委員会構成が属人的にならないよう、全国の会員との接点を広げ、新たな視点や参加の機会を設ける。さらに、55周年テーマ「ANHA未来への遺産」に沿って企画の記録を整備し、経験が資産として蓄積される仕組みづくりに努める。

○研修委員会 (委員長 金子祐子)

研修委員会の活動目的は、会員ホテルの持続的な成長と競争力向上を支援するため、個人では獲得が難しい専門的な知見と交流の場を提供していくことと考えている。学びの時間を獲得するのがなかなか難しい24時間営業365日稼働が当たり前のこの業態において、経営者のみならず、現場で日々仕事をしているスタッフの皆さんが一人でも多く参加が可能な場を提供し「未来を資産にするための学びの習慣」を定着させることを目標とする。

1. 研修の実施

(1) ホテル経営者セミナーの開催 (令和9年2月開催予定)

目的：ホテル業界で問題視されている事柄を取り上げ、専門家を招いて講演会を開催し、ANHAの存在意義を再認識し、新規会員の勧誘を促進する。

内容：講演＋パネルディスカッション (時にはワーク) ＋質疑応答＋意見交換会など机上の空論ではなく現場で練り上げられた知見を学び、各自が現状の課題解決に繋げると共に、経営の次の一步に向けた方向性を探る。また、意見交換を通じて、会員同士の交流を深めることで横の連携促進を図る。参加者目標：80名

(2) コラボレーションカフェ (株識学・Google、計6回 2時間/1回 (オンライン))

目的：ホテル経営における仕組みづくり、マネジメントスキル、最先端の生成AI情報を定期的にそして連続的に学ぶことで具体的、実践的な学びを提供する。

内容：①「株式会社 識学」…4月・5月・6月 計3回

組織の『機能』を最大化させるための超合理的なマネジメント理論を学び、数値化と結果主義が経営にもたらす成果を理解する

②「Google」…7月・11月・3月 計3回

ホスピタリティの本質を深めるパートナーと言われ始めている生成AIについて「業務効率化」「顧客体験の進化」などを軸に学び、ホテルの現場に具体的なアクションとして落とし込む

(3) ディスカッションカフェ（10月・1月 1時間/1回（オンライン））

目的：現場レイヤーの課題を取上げ、既に何らかのアクションで課題解決されている仲間にご登壇頂き情報共有する場を提供する。

内容：研修委員（全員経営者）の話合いの中で自社で課題と感じていることを取り上げ、それについて具体的な解決策を見つけていく

2. 委員会の開催

（4月・5月・6月・7月・9月・10月・11月・1月・2月・3月 計10回）

その月に行うセミナーの前後で打ち合わせの時間を設け必要な議論や決議を行いを委員会として位置づける

目的：会員の興味関心に沿ったテーマ選びや学びが多くスムーズなセミナー運営をするため。

内容：経営者セミナー、コラボカフェ、ディスカッションカフェを運営するにあたりテーマ設定などの協議、準備、振り返りを行う。

3. 委員会メンバー

（委員長）	金子 祐子	（ホテルグリーンコア）
（副委員長）	内川 英敏	（所沢パークホテル）
（委員）	山南 英喜	（つくばスカイホテル）
（委員）	塚本 忍	（つくばの湯アーバンホテル）
（委員）	不川 裕也	（株式会社MS&O・ホテル於久仁）

○女性部（部長 藤橋 由希子）

女性部の目的は、業界に欠かせない女性が生き生きと働ける環境を整え、「ホテル業界は女性にとって働きやすい業界である」という認識を広めることにある。しかしながら、参加女性の立場や発言の安全性を重視するあまり、閉鎖的なイメージを与えているかもしれず、これを解決するために、今後はオープン参加（男女や役職不問）の事業や、他の委員会や支部との連携事業を模索し実現していきたい。

1. オンライントーク会開催及び情報発信

目的：ホテルに張り付いた業務に就く女性スタッフに対し、学びや課題解決、業務改善など自身の成長はもちろん、勤務するホテルに対してもメリットにつながる機会を作ること。

参加者が、普段得にくい同・異業者、同性の仲間との良好な関係性を構築することにより、モチベーションの向上や、ストレス発散、悩みの解決に繋げ、

意欲的に働けるコンディションを整える機会を作ること。

内容：女性部発足以来継続している事業。毎月1回オンラインによるトーク会を開催し、悩みや課題の解決、自主勉強会等を実施し、毎回その報告書を本部より全会員にメール配信する。またオープン参加の機会を設ける。

今年度より、リアル研修会開催月は、トーク会を実施しないこととする。年間の開催回数は11回。業務の上でのアイドルタイムである13時から14時で固定する。開催日は最終週の月曜日を基本とするが、女性部運営委員の都合に鑑み、年間開催日を総会時に案内できるようにする。参加人数目標：延べ165名

2. リアル研修会（オフ会）の開催

目的：普段オンラインで限られた時間での交流をする参加者たちが、オンラインでは補えない時間をかけた研修、手法により、より学びを深める機会とする。

ANHA経営陣が普段感じている、「実際に会うことの価値」に従業員（参加者）にも経験してもらい、今後の業務に意欲的に取り組んでもらう機会となる。

内容：①他のホテルの視察も兼ねられるように、宿泊型の研修とする。

②会費制で交流会を開催し、女性特有のより深い関係性の構築欲求を満たせる場とする。

③オープン参加の機会を設ける。

3. ANHA会報への寄稿

女性部の活動目的を実現させるためには、会員、特に経営者層にその内容を知ってもらう必要があることから、毎年1回、女性部の1年間の活動をまとめ、提言を含めた寄稿文をANHA会報に掲載することとしたい。

4. 委員会開催等

毎月実施するオンライントーク会の前後で打ち合わせの時間を設け、必要な議論や決議を行う。これを委員会として位置づける。

5. 委員会メンバー

（担当常任理事） 内山 美樹 （ホテル明治屋）
（部長） 藤橋 由希子 （金沢の宿 由屋るる犀々）
（副部長） 金子 祐子 （ホテルグリーンコア）
（委員） 小山 多恵 （中町フジグランドホテル）
（パートナー） 金宗 有美 （賛助会員 ダルフィンインターナショナル）

○支部長会（担当副会長 生内 雄二）

全日本ホテル連盟の活動の両輪の一つである支部について、全国8箇所に分かれる支部活動を原点から見つめ直し、基本を再確認しながら、これからの時代の変化に適應する支部のあり方を模索する。以前の独立系が中心だったホテルの会員構成から、半数をチェー

ンホテルが占めるに至った組織構造の変化も踏まえ、支部活動のあり方を追求する。

- (1) 各支部の長所・短所を明確にする事で、問題点をあぶり出す。
- (2) 支部活動を進める上での指針となるマニュアルの作成
- (3) それぞれの支部に各パートを振り分け、支部ごとに提案してもらう。
- (4) 各パートを精査し、すべての支部で適応出来る内容にグレードアップさせる。
- (5) MVVの理念に沿う形のものにまとめ上げる。
- (6) トップが変わってもブレない内容の物を目指す。

支部ごとの活動に対する温度差を解消し、すべての支部が同じ目的に向かい支部会員のために活かせる支部マニュアルの作成を令和8年度の活動の中心とする。

〔令和8年度支部事業計画〕

○北海道支部（支部長 不川 正三）

支部運営の安定化、会員相互の連携強化、本部事業との連携を基本に事業を推進する。

- (1) 支部報告会・支部情報交換会 4月27日、12月
会員相互の交流を促進し、北海道内の横のつながりを強化すると共に、支部活動への理解促進と参加意欲の向上を図る。
・支部役員会並びに意見交換会 5月、12月、3月
- (2) 本部事業への支部会員の参加費補助
経営者セミナー参加者補助
- (3) 優良従業員表彰への推薦
北海道支部として積極的に推薦する。
- (4) 支部セミナーの開催
タイトル：北海道支部接遇コンテスト2026（仮題）
- (5) 支部運営
北海道内の宿泊4団体との連携、協調の場における意見交換等
- (6) 支部役員会の開催
- (7) 支部役員
(支部長) 不川 正三
(副支部長) 林 孝秀、山下 健、林 佑太、一島 房雄、不川 裕也
(理事) 坂地 重樹
(理事・事務局長) 不川 裕也
(監事役) 林 孝浩

○東北支部（支部長 星野 孝人）

- (1) 東北支部報告会の開催（青森市） 4月13日
- (2) 周辺観光施設視察 4月14日
三内丸山遺跡、青森県立美術館、ねぶたの家ワラッセ、A-FACTORY
- (3) 支部役員会（青森市）
- (4) 支部役員
（支部長） 星野 孝人
（副支部長） 大谷 泰彦
（理事・事務局長） 星野 裕子
（監事役） 八木 義人

○関東支部（支部長 服部 公雄）

- (1) 理事会の開催 4月、7月、9月、11月、1月、3月
- (2) 支部報告会 4月24日
- (3) 研修部会 7月、9月、11月
- (4) 賀詞交換会 1月
- (5) 支部役員
（支部長） 服部 公雄
（副支部長） 山南 英喜、上岡 賢、川口 裕久
（理事） 嵯峨 雅良、樋口 敬祐、渡部 青史、出井 弘俊、花岡 有希
（事務局長） 花岡 有希
（監事役） 上川 訓史

○甲信越支部（支部長 神津 亜紀）

支部会員の交流の場としての意味合いに加え、昨今のホテル業界を取り巻くインバウンド客の増加、人で不足、経費高騰等、環境の変化に即した情報の発信、情報交換に重きを置いていく。

- (1) 支部報告会・情報交換会 4月22日
講演「宿泊業の高付加価値経営ガイドラインに基づく登録制度」について
- (2) 優良従業員表彰の推薦 4月
- (3) 本部総会出席 6月11日
- (4) 支部役員会（年5回）
- (5) 支部研修会・情報交換会 12月を予定

本部理事会、研修委員会、支部役員会等で情報収集し、会員の欲する情報を提供する研修会としたい。

(6) 本部事業出席推進

本部事業、研修委員会のセミナー等の周知・案内を徹底する。

(7) 北陸信越運輸局主催の会議への出席等

(8) 支部役員

(支 部 長) 神津 亜紀

(副支部長) 江本 清東

(理 事) 曾根 隆夫、内ヶ嶋 雅功

(理事・事務局長) 小林 篤史

(監 事 役) 竹内 一公、田中 芳美

○中部支部（支部長 成田 雅範）

本年度の事業は、単年度の支部事業の実施ではなく、創立55周年を機に「未来に向けた種まき」である。理事一同で委員会事業への参加を促す一所懸命なサポーターとして動き、各地の支部会員が「全日本ホテル連盟の仲間である」という誇りを感じられる支部を目指す。

(1) 新規会員獲得に向けた「現場主義」の徹底

①正会員ホテル（準会員ホテル）の優先視察・ヒアリング：

②実利提供（マッチング機能）の強化：

ヒアリングで得た課題に対し、賛助会員（リクルート社やITベンダー等）を即座に繋ぐ体制を整え、「入会による実利」を体感できる仕組みを構築する。

(2) 組織基盤の強化（静岡エリア重点強化と豊橋への接続）

①静岡・愛知（東三河）エリアの掘り起こし：

11月に開催予定の「タウンミーティング in 豊橋」を最大の発信拠点とし、隣接する静岡東部・西部エリア（浜松・沼津）の活動を前半に集中させ、広域的な熱量を醸成する。

②中期ロードマップの提示：

「1年目：土壌を耕す（信頼構築）」「2～3年目：芽吹く（会員増強）」「4～5年目：開花（先進モデルの確立）」という5カ年展望を提示し、組織の長期的な安定を目指す。

(3) 事業推進の活性化（委員会事業への動員集中）

①「熱源」としての支部活動

本部が主催する各委員会事業へ支部理事自らが参加を促す“本気の誘致”を展開する。また、未加入ホテルに対しても積極的に発信し、「課題解決の場としての連盟活動」の価値を具体的に伝えることで、参加促進と新規加入の双方につなげていく。

“顔の見える誘致活動”を通じ、支部全体の参画意識と連盟価値の底上げを図る。

②地方分散開催の要望と全面サポート

委員会事業の中部支部誘致を本部に働きかけ、地域会員の参加機会を向上させるための集客・運営バックアップに注力する。

(4) 支部役員会（地方巡回）・意見交換会スケジュール

上期は、豊橋市でのタウンミーティングに向けての動員強化、下期は、関係強化を中心に取り組む。

- ・本部主催事業への参加促進
- ・委員会事業への参加促進 11月、2月、3月
- ・支部報告会 4月23日（豊橋市）
- ・支部研修会 4月23日、1月下旬
- ・支部役員会・支部意見交換会 4月、6月、10月、11月、2月

(5) 支部役員

- （支 部 長） 成田 雅範
- （副支部長） 藤橋 由希子
- （理 事） 鈴木 敏彦、新任1名（予定）
- （理事・事務局長） 新任1名（予定）
- （監 事 役） 内山 美樹
- （相 談 役） 清水 嗣能

○近畿支部（支部長 中島 秀雄）

- (1) 支部報告会及び意見交換会 4月16日（大阪市）
- (2) 会員向けセミナー及び意見交換会 4月16日（大阪市）、10月
ホテルの経営・運営に直結するテーマを選定し、外部講師を招いた講演会型セミナーを開催する。普段参加しない会員への訴求強化、新規会員増につなげたい。
- (3) 花笑み会 7月、1月
- (4) 若手人材育成プロジェクト 12月
大阪学院大学、羽衣国際大学、DMOと協力
2大学と共催し、大学生と若手会員ホテルスタッフの合同イベント開催
- (5) 観光組織との交流及び連携強化 6月、12月
大阪観光局、関西観光本部。オーサカ・ゼンリョ協力会との意見交換会実施
- (6) 支部役員会 年8回
- (7) 支部役員
（支 部 長） 中島 秀雄
（副支部長） 長谷 徳藏、宮崎 晴美
（理事・事務局長） 山口 凌
（理 事） 増員調整中

(監 事 役) 北原 信輔

○中国四国支部 (支部長 沖 一泰)

- (1) 支部報告会 年8回 4月20日
- (2) 本部総会出席 6月11日
- (3) 支部交流会
- (4) 本部経営者セミナー参加 2月
- (5) 支部役員

(支 部 長) 沖 一泰

(副支部長) 保木本 秀行

(理 事) 檜垣 政重、荒川 裕己、石田 光一郎

(理事・事務局長) 沖 美千代

○九州支部 (支部長 相部 光伸)

- (1) 支部報告会 4月10日、2月
- (2) 九州運輸局 観光ビジョン推進九州ブロック戦略会議への参加 5月、9月、3月
- (3) 正会員入会活動 通年
通年、未会員ホテルへ営業をかける、セミナーや営業先でのお声掛けをする。
- (4) 本部や他支部主催のセミナーへの参加支援
本部理事会への参加

- (5) 支部役員会 4月、5月、7月、11月

- (6) 支部役員

(支 部 長) 相部 光伸

(副支部長) 日高 基晶、萩原 直也

(監 事 役) 圓佛 隆之

(事 務 局) 伊藤 和